

#011

※画像の一部にCG加工を施してあります。
Shown images are retouched and may vary from the actual product.

1/100 FULL ACTION PLASTIC KIT

フレームアームズ#011

SA-17s ラピエール ゼファー

SA-17s RAPIER ZEPHYR

© KOTOBUKIYA

●機体解説●

SA-16 (スティレット) に代わる航空戦力として開発された「SA-17 ラピエール」は、狙撃型という限定的な仕様にも関わらずトータルで良好な性能を示したが、同時期に開発が進行していた SA-16B25 (後のスーパースティレット) のコストパフォーマンスの前に、次期主力機としての座を奪われることになってしまった。製造コストの高さも手伝って、極少数が生産されるに留まった SA-17 だが、その性能の高さは誰もが認めるところとなり、ヨーロッパを中心とした各地のエースパイロットへ優先的に供給され、高い戦果を挙げた。

SA-17 はその汎用性の高さから、作戦内容やパイロットの嗜好によって様々なカスタマイズを施されることが少なくなかったが、その中でも抜きんでて名を馳せた派生機種が存在する。単騎での奇襲と近接戦闘による敵の排除、さらに同時に多数の敵と渡り合う「多対一」をコンセプトに、SA-17 の武装や機体制御システムを全面的に改変した「SA-17s ラピエール ゼファー」がそれである。

本機は SA-17 が本来持つ高い運動性に加え、SA-16B25 に匹敵する加速性能を持ち、疾風の如き電撃作戦を単騎で展開した。驚くべきは、突出した性能を持つにも関わらずオリジナルとの外見的差異がほぼ見受けられなかったことで、例えば推進機器に大幅なチューン・アップが施されていたにせよ、基本スベックの変更なく「遠距離からの安定した狙撃」から「奇襲と格闘」という真逆のコンセプトへ転化せしめたことは、SA-17 の持つポテンシャルの高さを示す好例となり、ヨーロッパ諸国の防衛機構首脳に大きな衝撃を与えた。

本機は初の目撃例となった第一次アラスカ基地防衛戦以降、様々な作戦に独自介入し、月面から侵攻する敵 FA の排除、友軍機の救出と多大な活躍を見せた。激戦区に疾風のごとく現れ、敵 FA 群を蹴散らしていく雄姿は戦場の兵士たちを奮い立たせ、劣勢の戦局から最善の戦果を勝ち取ることも少なくなかったという。

その流麗な外観と相まって、本機は友軍から「**ゼファー**」と呼ばれ称えられるとともに、SA-17 の再評価を促すきっかけを与えた FA となったのである。



Original Design NAOKI
Illustration FA DESIGN WORKS.

●Spec●

- 頭長高 15.7m ●乗員 1名
- 標準装備 八式電磁加速砲「隼戒」^{レイメイ}「穿月」^{ウツツキ}
- 追加装備 頭部：広域索敵レーダー「LR-S07 / シュー」
- 主機 SHR5500-RE セイレーンmk.V×1 (RAF-04 / スポッター)
- 補機・肩部：フラッグ・スラスター (OR-RSP-02 / 5×2)
腰部：スラスト・ベクターリング・ユニット
(IOF II 205×2 / FAT-65×2)
- 駆動骨格 フレームアーキテクト TYPE001

II Battle Graffiti -SA-17s RAPIER ZEPHYR- II

SA-17s 通称「ゼファー」初の目撃例となった第一次アラスカ基地防衛戦。

同戦闘は、月面から侵攻する敵 FA 群の突発的な襲撃に端を発したもので、事態に慌てた基地司令部の性急な判断によって近隣に進駐していた FA 部隊が招集され、彼らはろくな作戦説明も行われないうちに強要された。司令部は時間的ロスを数でカバーしようと考えたのである。

このような事態において往々にしてありうることだが、その頭数で緒戦こそ優勢だった FA 部隊も、急ごしらえの編成が災いし、連携の弱い部分から徐々に切り崩しを喰われ、戦線を分断されてしまう。

戦闘開始から程なくして混戦状態となった戦況の中、一際目立つ赤い機体があった。

西方第 14 部隊所属、ロイ・エイラム少尉の SA-17 ラピエールである。

「くそ…まずいな…」

援護を受けていた同第 09 部隊のスティレット小隊から通信が途絶えたのが 30 秒前、それまで順当に敵機撃破を続けていたラピエールが「高高度から狙撃を行ってくる厄介な敵」と認識されたのか、敵 FA から執拗なまでの追撃をうけ始め、徐々に包囲されつつあった。

ラピエールに迫る敵影は 4 つ。いずれもが「子鬼」と呼ばれる敵陣営の新型 FA だった。自機を「△」の形に囲んだ 3 機がつかず離れずの間合いから銃弾を浴びせ、回避ポイントには止めを刺さんと最後の 1 機が待ち受ける。有無を言わさぬ完璧なフォーメーションであり、小尉にとって完全な「詰み」であった。

ライフルを捨て、格闘戦に持ち込めば活路は開くか。追い詰められ、冷静さを失った頭が「装備放棄」のコマンドを選択しようとした刹那、「ポイント 304E のラピエール。じっとしている。活路を開く」

エイラム少尉の耳が味方機と思しき通信を捉えたのと、眼前に迫った敵機がはじけ飛ぶのはほぼ同時だった。

考えるより早く、自機に最大加速をかけさせ、包囲網から脱出するラピエール。次に少尉が目撃したのは、敵陣に燕のごとく飛来する青いラピエールの姿だった。

同型機…!? しかしあの加速はなんだ。特攻でもかけるつもりか？援護に現れた機体の猪突猛進ぶりに少尉は困惑する。だがその後に見せた味方機の挙動は少尉をさらに唖然とさせた。

肩のフラッス・スラスターを全開させ急制動をかけた「ラピエール」は、瞬時に腰部ベクタリング・ユニットを作動させて「蹴上がり」をやり、そのまま正面の FA を本当に蹴り飛ばした。と見た瞬間に、同機を挟んで対極線上に位置していた 2 機の胴に風穴が空いていた。手にしている大型拳銃が 2 体を同時に屠ったのだ、と認識したのは、同じ銃口から残った 1 機に光弾が叩き込まれた後だった。



この間、わずか 2 秒足らず。文字通り一瞬で敵を屠る様は、溜まった汚泥を吹き飛ばす一陣の疾風そのものに見えた。

敵機を全滅させた青いラピエールは、呆けたように滞空するエイラム機の背を守るように機体を寄せてきた。

「このまま迎撃を続行する。次の優先状況であるポイント 427A まで同道されたし。本機がエスコートする」

味方機から再度音声通信が入る。さっきは咄嗟のことで意識もしなかったが、それは低く澄んだ女の声だった。

「…了解した。援護感謝する。貴公の所属と官姓名を聞いてもいいか？あとで酒でもおごらせてくれ」

「東方第 8 方面軍所属 今朝霧スミカ。階級はない」

そのパイロットは落ち着いた様子で告げた後、「礼なら不要だ」と短く付け加えた。



同防衛戦は投入 FA48 機に対し戦闘不能 32 機(うち大破 18、中破 14)という惨憺たる結果に終わったが、ラビエール2機の奮戦により敵陣営を撤退にまで追い込み、基地陥落という最悪のケースは免れることとなった。

が、当の立役者であるエイラム少尉にしてみれば、運よく女神に命を救われた、という感慨しか湧かなかっただろう。

そんなエイラム少尉も作戦終了後に、2度目の驚愕を味わうことになる。

曰く、該当する軍の戦闘参加の事実は認められず、ケサギリスマカという女性パイロットの記録も存在しない、と。

しかし彼女が虚構の存在でなかったことは、本戦闘以後、各地で「青いラビエール」の目撃情報が続々と増えていく事が明らかにしてくれる。

何の見返りも求めず、赫奕たる戦果を挙げて去って行く彼女を、戦場の兵士、FAパイロット達は敬意を込めて「^{ゼファー}風神」と呼んだ。

II ゼファーの装備する武器 II

●八式電磁加速砲 “隼戒” “穿月”

その外見から「大型のハンドガン」と誤認されやすいが、実際はその性能から「超小型のリニアレールカノン」であるとの見方が有力である。「有力である」というのは本装備について制式配備の記録が存在しないため、現段階ではゼファー専用開発されたワンメイクの装備であると考えられている。観測される限りFAが携行できる火器中トップクラスの貫通力を誇り、機体性能と併せてゼファーを象徴する装備であるといえる。なお、銃身にそれぞれ「隼戒」と「穿月」という銘が打たれていることが判明しているが、2つの間に外見的、性能的差はほとんど見られない。



II ラビエールの頭部バリエーション II

エースパイロットへ優先的に供給され、高い戦果を挙げたラビエール。そんな中、本機の特徴である頭部レーダー「シュヴー」について、高い情報処理能力を得られるものの、作戦内容によってはその重量や体積があたとなるケースも報告されていた。そのため、作戦内容やパイロットからの要望によって、幾パターンもの頭部バリエーションが生まれることになる。メーカー側で対応したのもあれば、現地改修的に行われたものもあり経緯は様々である。以下にその一例を挙げる。



●モノクラフトタイプ

俗に「ポニーテール型」と呼ばれる単機搭載型。現場からの軽量化要請にメーカーが応じたもので、中央ユニットにサブセンサーを登載することで重量を半減させつつ2基搭載時との性能差を30%に抑えるという理想的な結果をもたらしたが、設置時に背部主機と干渉するという致命的な欠陥が発覚し、現場から即リコールされるという珍事を引き起こした。だが、FAのアセンブル内容によっては(主機を旧型のセイレーンにするなど)装備可能で、本装備による運動性と索敵性能のバランスが混戦時において有効に機能したという報告も少なからず挙げられている。



●スレードタイプ

SA-17の前身機であるSA-16 スティレットのシステムに倣ったスレード型アンテナは、機体の運動性にこだわるパイロットのために現地の技術部にて急進的に作られたものが発祥と言われている。SA-17は指揮官が搭乗する場合も多く、通信機能については全く無視するというわけにはいかなかったのである。用途を限定した装備のため性能的には「シュヴー」と比べるべくもないが、その外見は長年SA-16に搭乗し愛着を持っていたパイロット達には好評だったようで、進んでこの装備をしていたという。

注意

必ずお読み下さい。

- 対象年齢15才以上（上級者向け）
- 小さな部品がありますので誤って飲み込まないように注意して下さい。窒息などの危険があります。
- 誤飲の危険がありますので、小さなお子様には絶対与えないで下さい。
- 製法上やむをえず尖った形状部品がありますので、誤って目や皮膚を刺さないように注意して下さい。
- 部品加工の際出た削りカスを吸わないように注意して下さい。
- 塗装の際、必ず換気を良くして行なって下さい。
- 部品の加工の際、刃物の取り扱いには充分注意して下さい。

■組み立てる前に必ずお読み下さい。

- 組み立てる前に必ずパーツリストで各パーツの有無を確認してください。
- パーツはニッパー・カッター等できれいに切り取って下さい。（ケガには十分注意して下さい。）
- 組み立てには、カッターナイフ・プラスチックモデル用塗料などを使用します。
- 塗料はより安全な水性塗料をおすすめします。
- 工具・材料は、模型専門店及び日曜大工店等でお買い求め下さい。
- 塗装についてのお問い合わせはお答えできかねる場合がございます。

【パーツの接続について】

当キットの組み立てはハメ込み式ですが、別売のプラスチックモデル用接着剤を使用して組み立てることで、よりしっかりとした仕上がりをお楽しみ頂けます。
※ABS製パーツの接着には、ABS用接着剤をご使用ください。

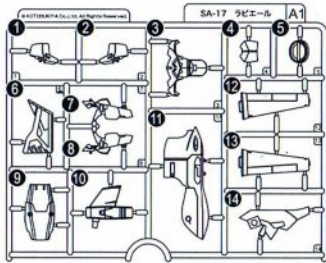
記号の説明



パーツリスト

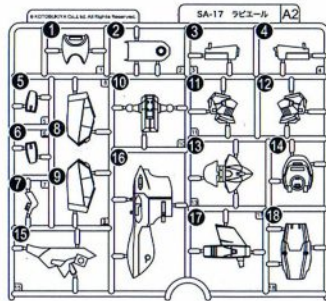
パーツA1

(スチロール樹脂：PS)



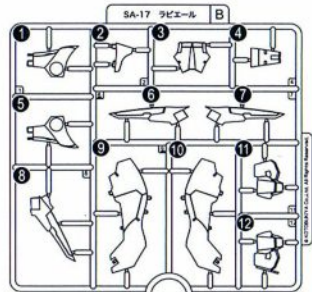
パーツA2

(スチロール樹脂：PS)



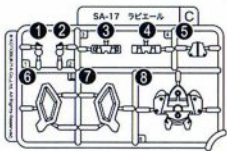
パーツB×2

(スチロール樹脂：PS)



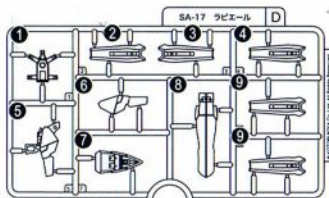
パーツC

(スチロール樹脂：PS)



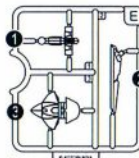
パーツD×2

(スチロール樹脂：PS)



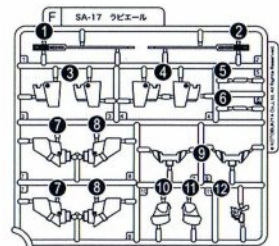
パーツE

(スチロール樹脂：PS)



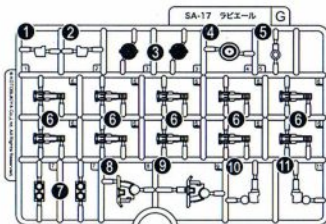
パーツF

(スチロール樹脂：PS)



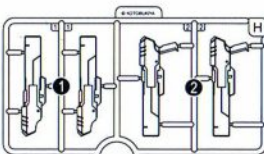
パーツG

(スチロール樹脂：PS)



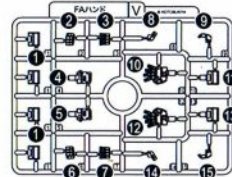
パーツH

(スチロール樹脂：PS)



パーツV

(スチロール樹脂：PS)



フリスター内容物

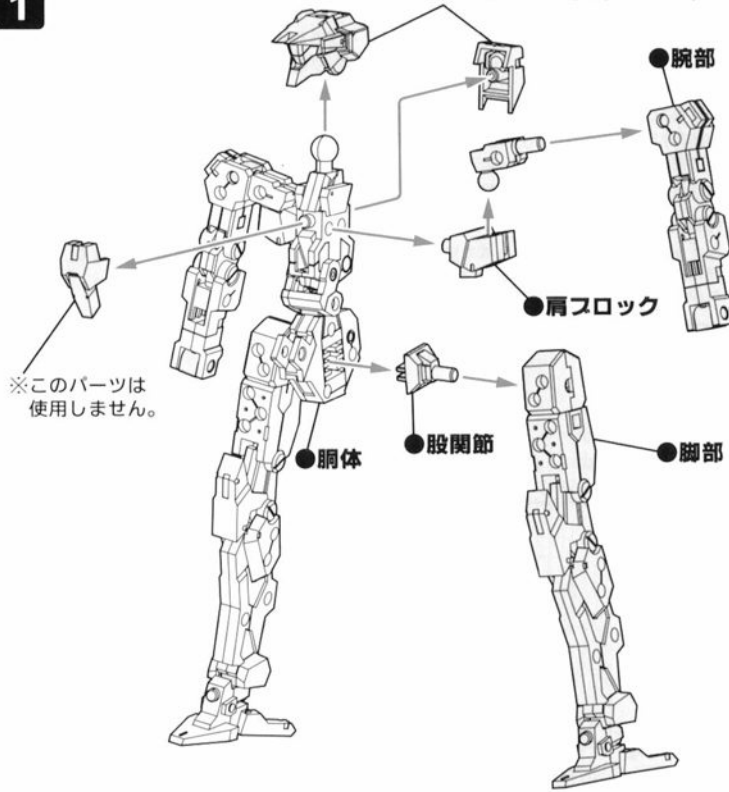
- フレームアーキテクト本体×1
(ABS樹脂：ABS)
- センサーパーツ×1
(ABS樹脂：ABS)
- ※センサーパーツは使用しません。

※F⑫の彩色部分は、模型用の薄め液で落とすことができます。

※フレームアーキテクト本体は材質上、塗装すると破損するおそれがありますので、塗装はお控えください。

1※このパーツは
使用しません。

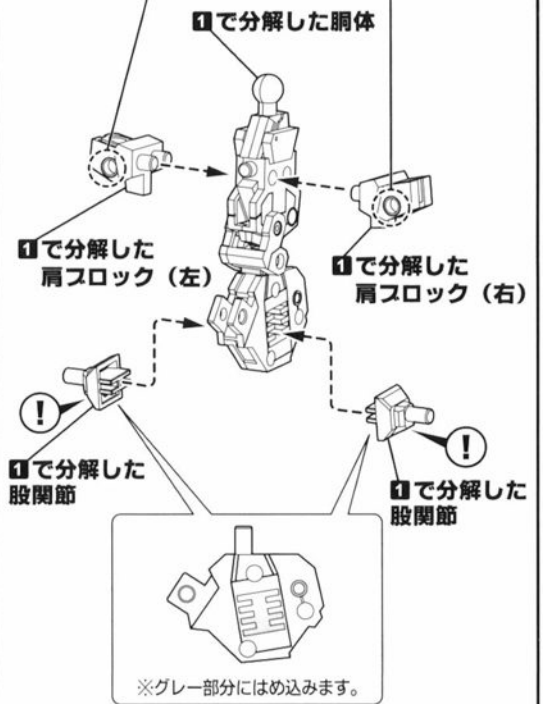
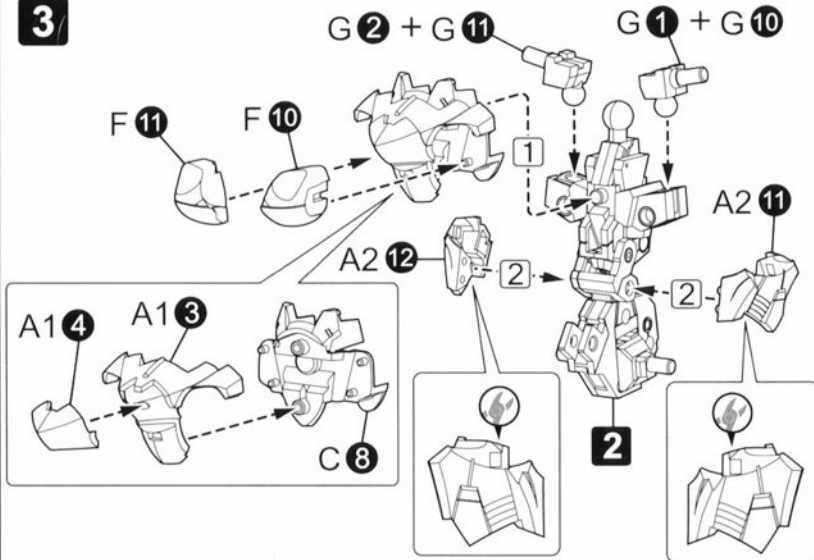
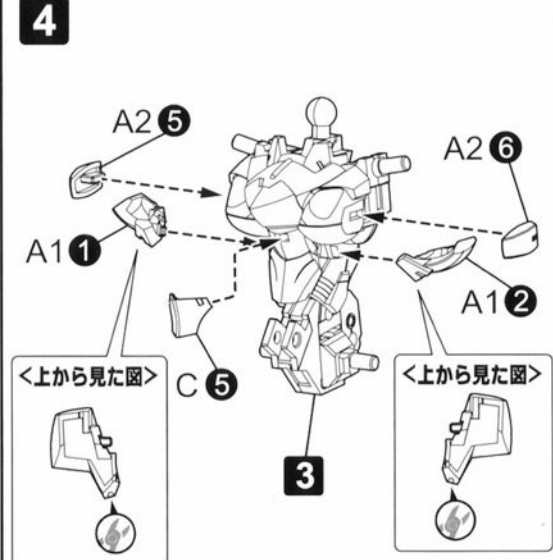
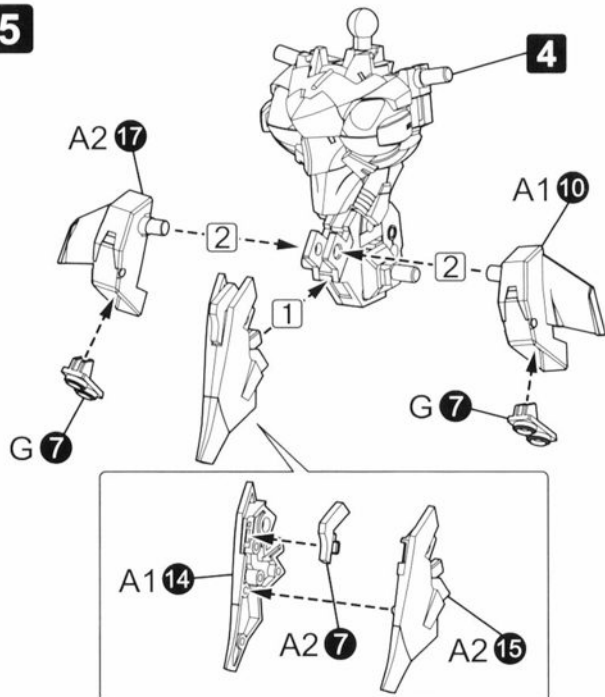
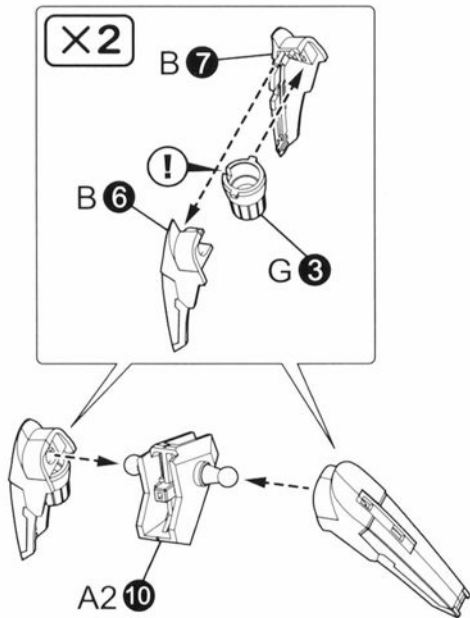
※このパーツは使用しません。

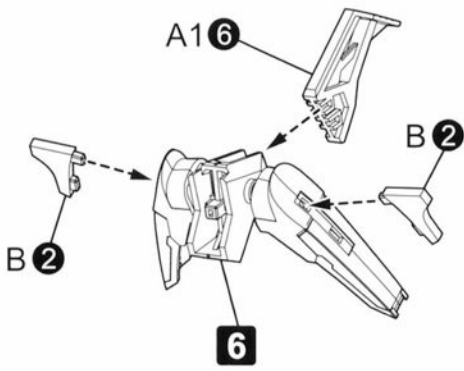


※フレームアーキテクト本体を図のように分解します。(右側も同様に取り外します)

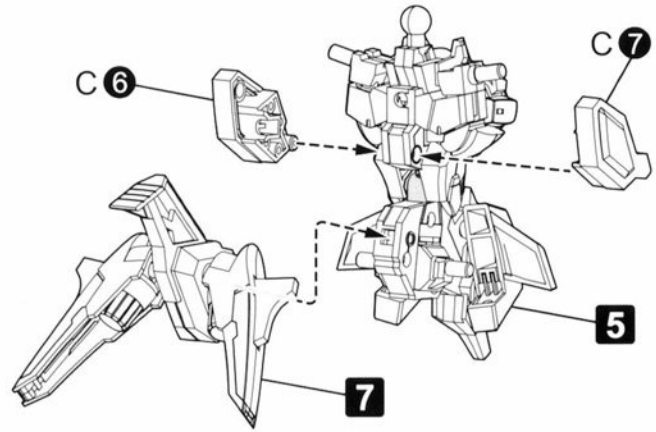
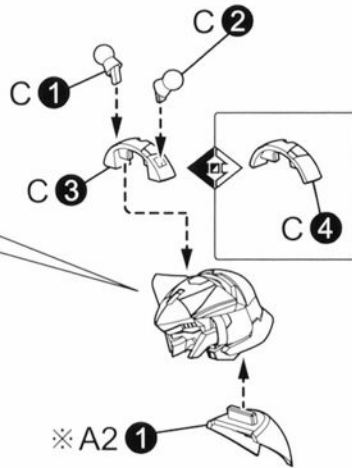
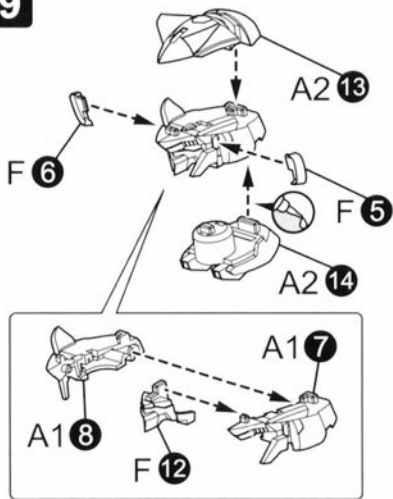
2

※穴のある方が前になるように組み換えます。

**3****4****5****6**

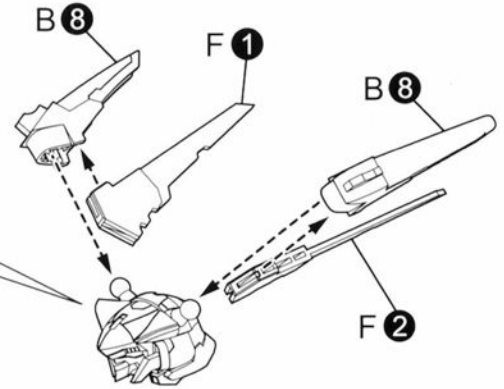
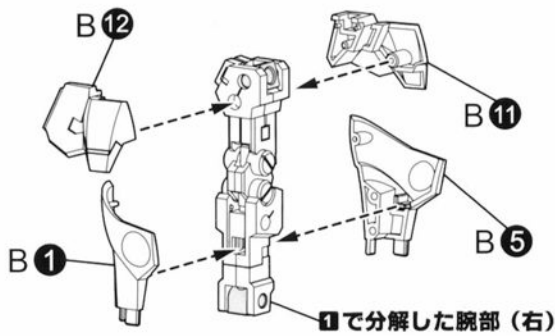
7**8**

<後ろから見た図>

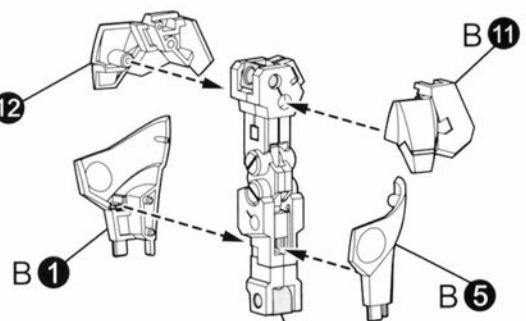
**9**

※A2 ①

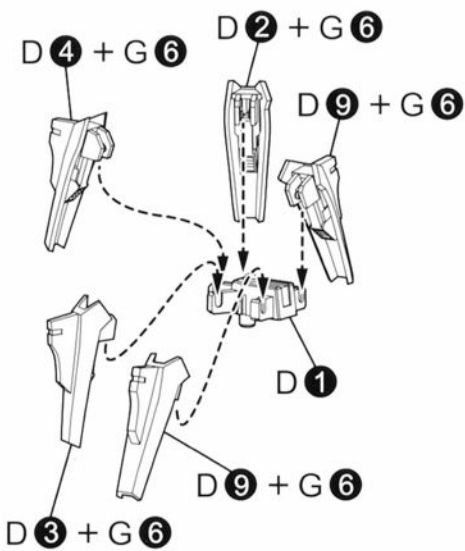
※A2 ①は「ゼファー」では使用しません。お好みに応じて取り付けて下さい。

**10**

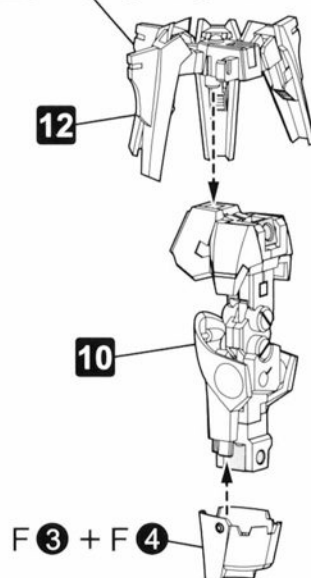
①で分解した腕部 (右)

11

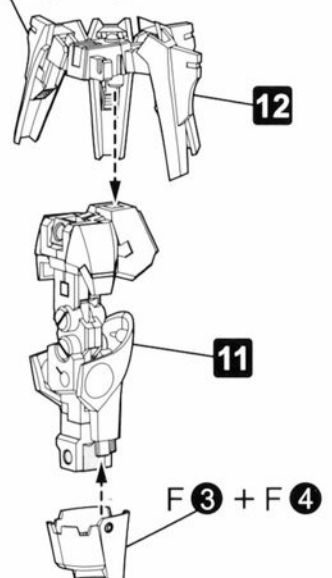
①で分解した腕部 (左)

12 ×2**13**

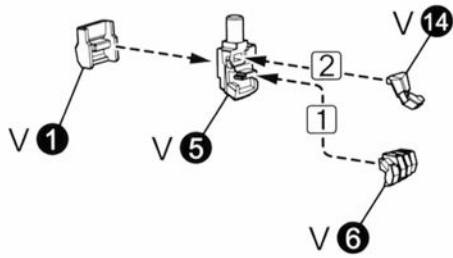
※図では説明のため前側のD ⑨+G ⑥を外しています。

**14**

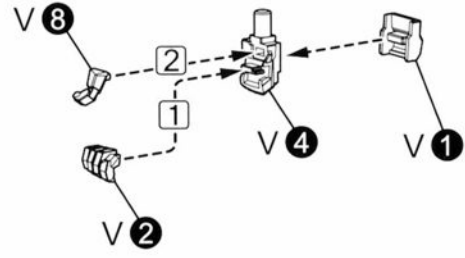
※図では説明のため前側のD ⑨+G ⑥を外しています。



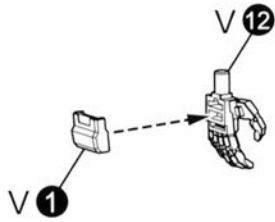
15 ●右拳



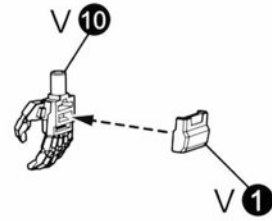
●左拳



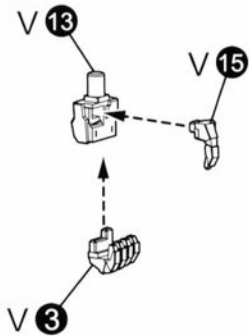
16 ●右平手



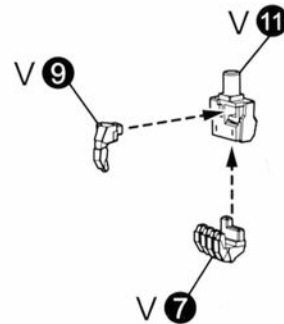
●左平手



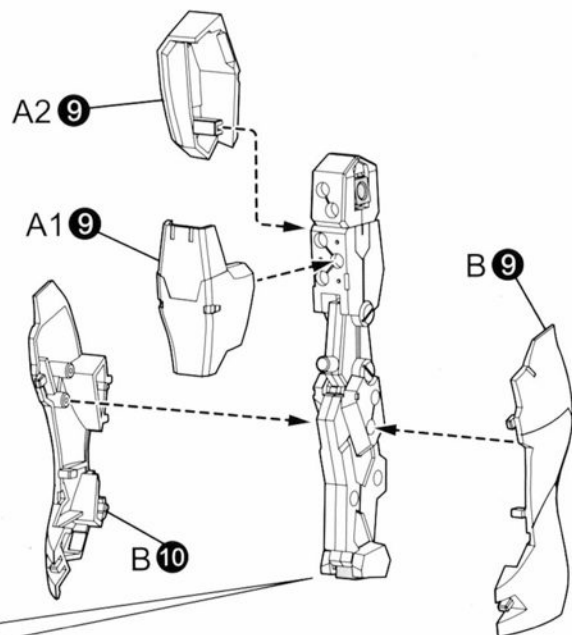
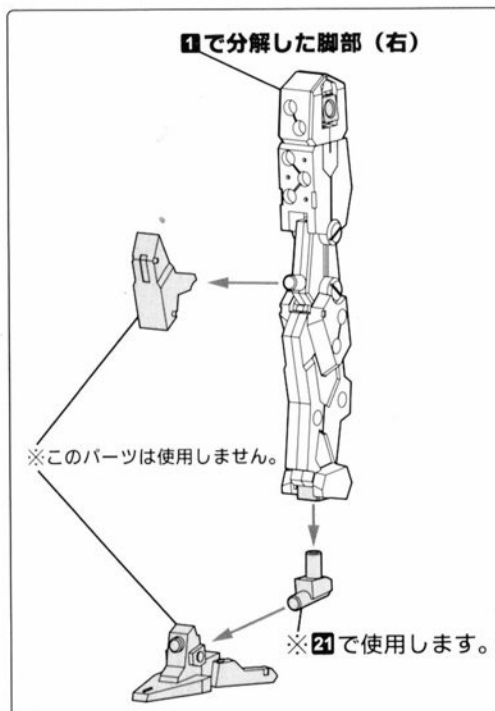
17 ●右武器持ち手

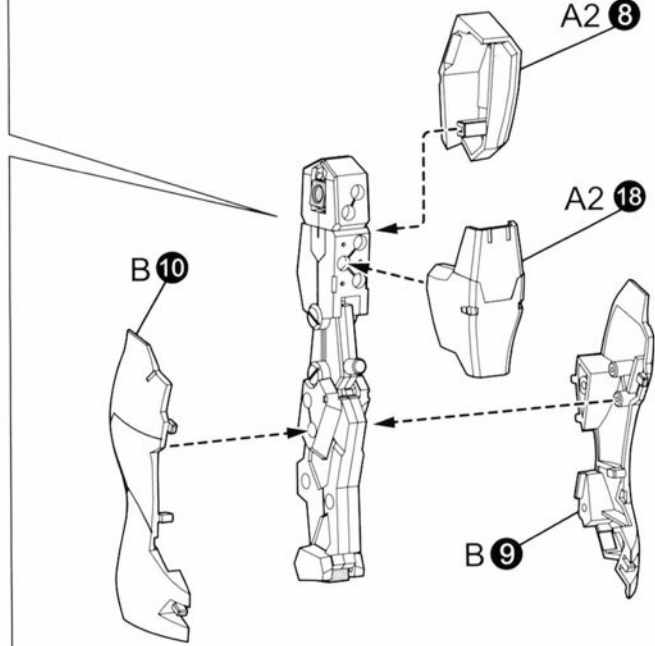
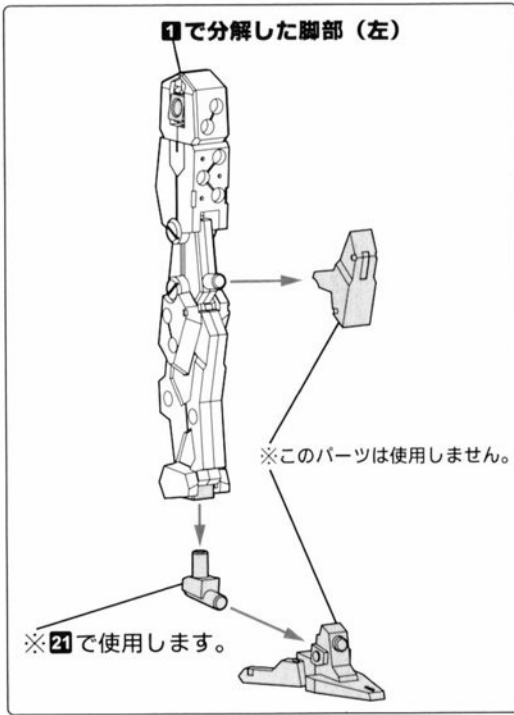
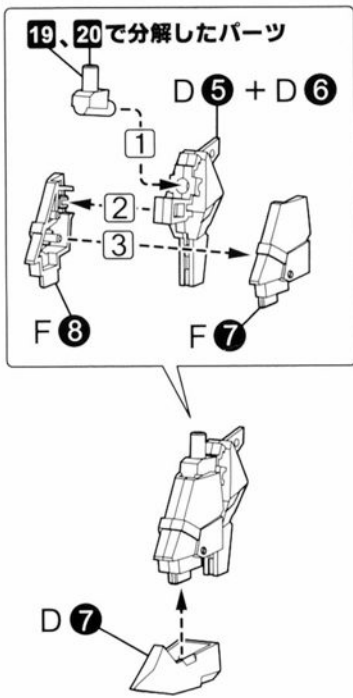
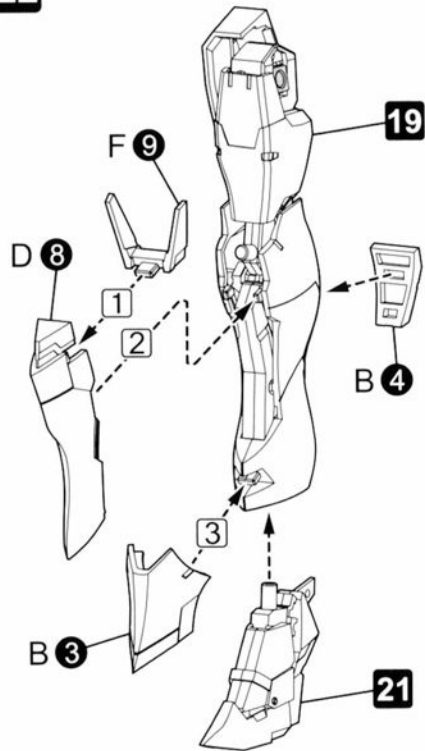
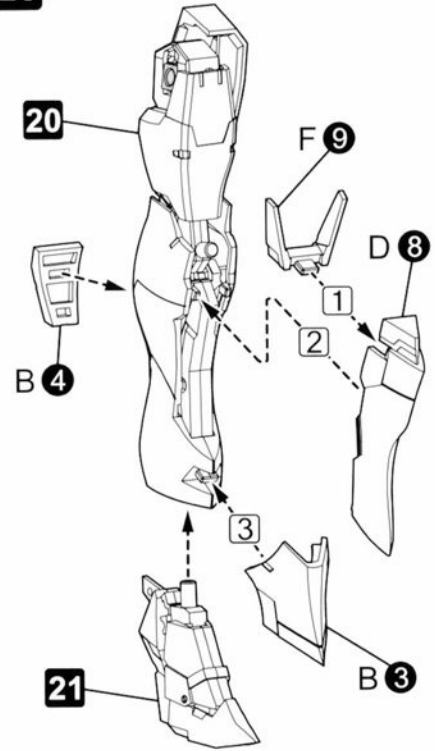
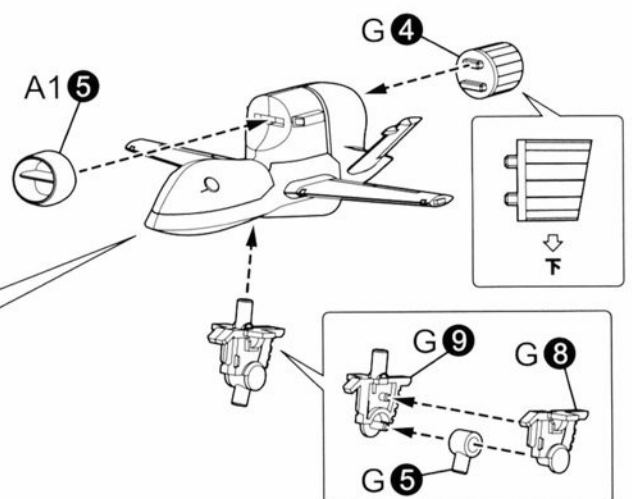
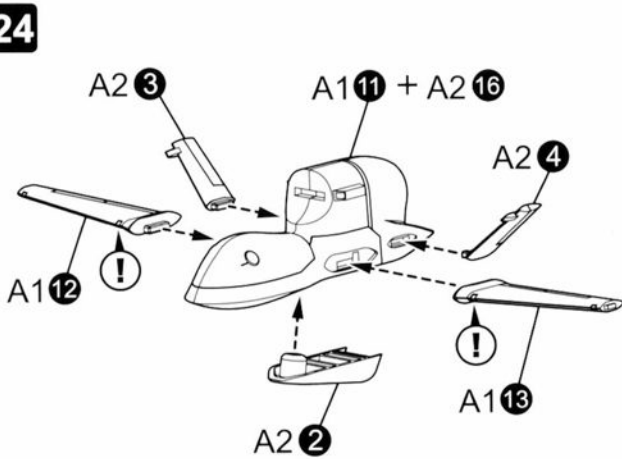


18 ●左武器持ち手



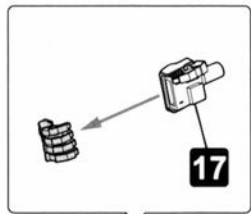
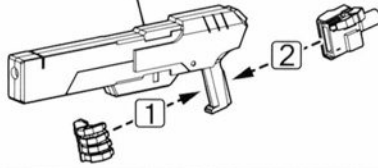
19



20**21** ×2**22****23****24**

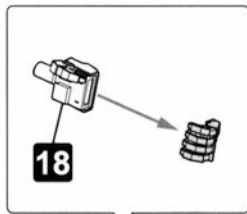
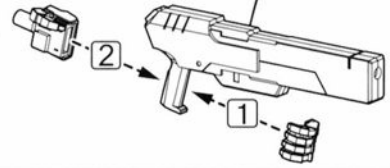
25

H ① + H ②

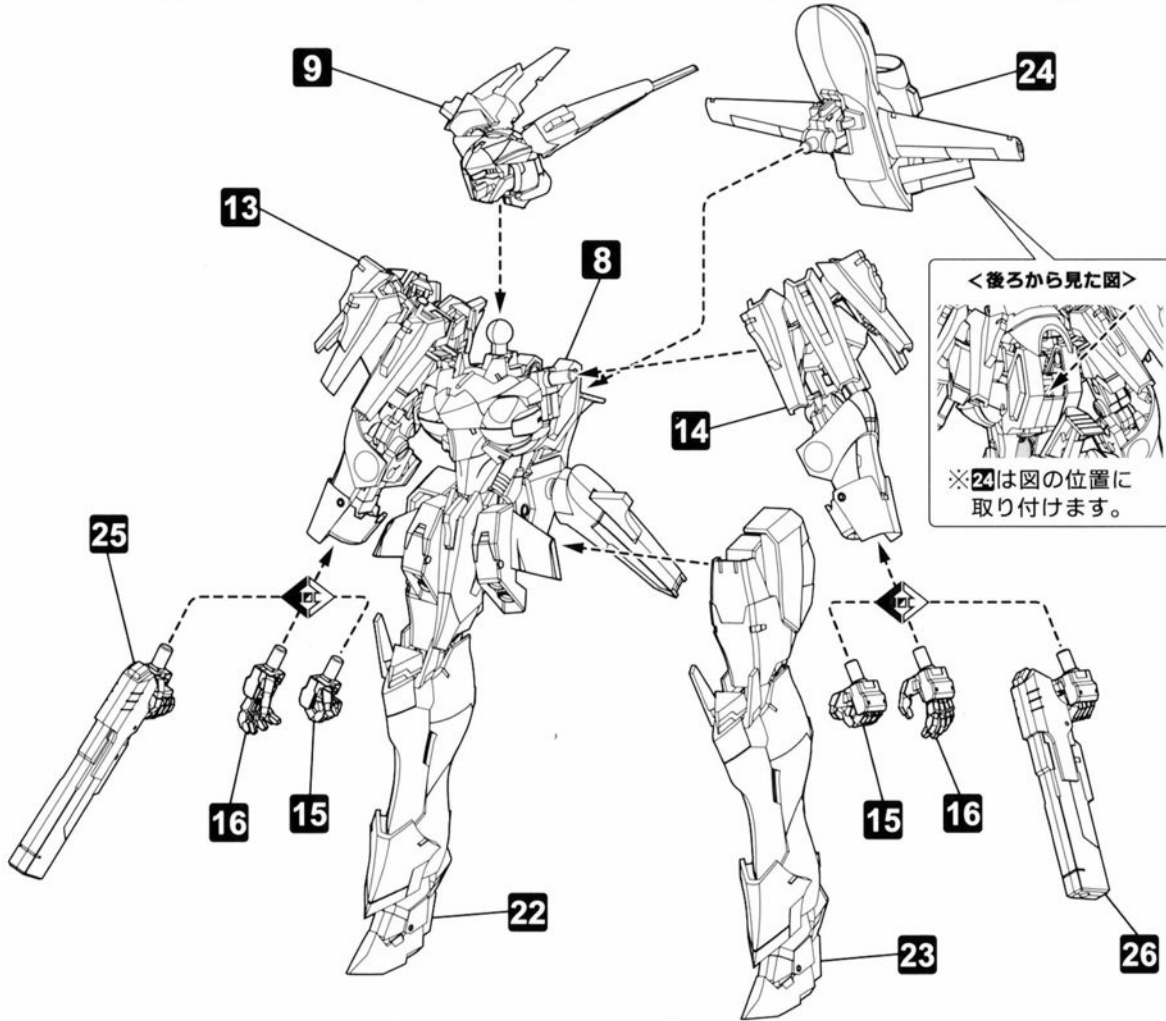


26

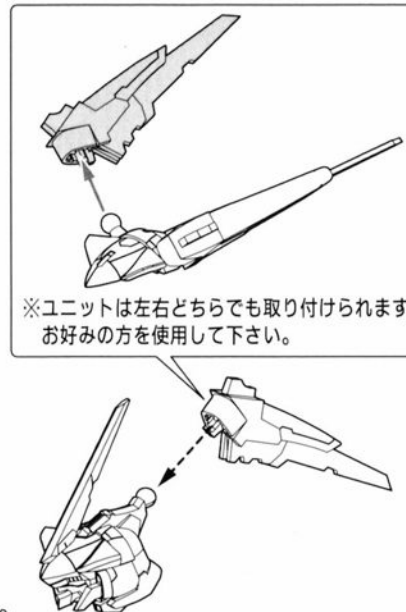
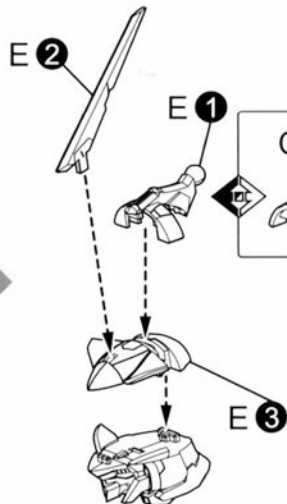
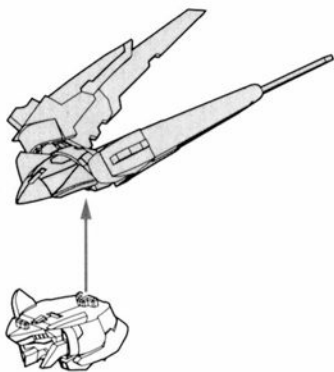
H ① + H ②



27



頭部パーツの交換



※図の取り付け方法は一例です。お好みに応じて組み合わせて下さい。

1 [Mr.カラー] /H-1 [水性ホビーカラー] : ホワイト



本体ブルー

- 80/H-35 : コバルトブルー (60%)
- 67/H-39 : パーフル (20%)
- 1/H-1 : ホワイト (20%)

本体パーフル

- 67/H-39 : パーフル (50%)
- 「色ノ源」マゼンタ (25%)
- 1/H-1 : ホワイト (20%)
- 2/H-2 : フラック (5%)

本体ホワイト

- 1/H-1 : ホワイト (98%)
- 112 : キャラクターフレッシュ(2) (2%)
- 2/H-2 : フラック (極少量)

本体グレー

- 13/H-53 : ニュートラルグレー (80%)
- 1/H-1 : ホワイト (20%)



フレーム・武器下部 グレー

- 1/H-1 : ホワイト (60%)
- 2/H-2 : フラック (40%)
- 「色ノ源」マゼンタ (少量)

胸部・武器 フラック

- 2/H-2 : フラック (95%)
- 1/H-1 : ホワイト (5%)

武器・バーニア シルバー

- 8/H-8 : シルバー(銀) (95%)
- 2/H-2 : フラック (5%)

センサー ピンク

- 112 : キャラクターフレッシュ(2) (100%)

フレームアームズ最新情報をゲット!! (QRコードもしくはURLよりご覧いただけます)

フレームアームズ 公式ブログ <http://ameblo.jp/kotobukiya7/>

